

令和5年度第2回 感染症発生動向調査部会
議事要旨

1 日 時 令和5年5月17日(水) 14:00～

2 場 所 岐阜大学医学部本館 1階 小会議室(岐阜市柳戸1-1)

3 出席者

委 員 : 馬場 尚志(岐阜大学医学部附属病院 生体支援センター センター長)
大西 秀典(岐阜大学大学院医学系研究科 小児科学 教授)
澤田 明(岐阜大学医学部附属病院 眼科 臨床准教授)
加藤 達雄(国立病院機構長良医療センター 呼吸器内科統括診療部長)
大野 元(岐阜県産婦人科医会 理事)
オブザーバー: 市原 拓(岐阜市保健所 感染症対策課 感染症対策係長)
事 務 局 : 八代 英彦(感染症対策推進課 管理監)
汲田 淳(感染症対策推進課 感染症対策第二係長)
可知 正行(感染症対策推進課 主任技師)
今尾 幸穂(保健環境研究所 疫学情報部長)
岡 隆史(保健環境研究所 主任専門研究員)

4 議 題 (進行:馬場委員)

- (1) 前月の感染症発生動向について
- (2) 検討すべき課題について
- (3) その他(感染症対策推進課から)

5 議事要旨

【前月の感染症発生動向について】

- ・事務局からの説明は資料のとおり。
- ・月番委員のコメントについては資料のとおり。

【検討すべき課題について】

○梅毒、HIV 感染症増加の背景要因、対策・啓発等について

- ・前年に比べて、AIDS 及びの梅毒の発生報告数が増加している。無料検査など、行政で実施している性感染症対策についてさらに広報活動をすすめ、周知をはかる必要があるのではないかと。(事務局から)
- ・梅毒の感染対策について、県ホームページでの情報提供や学校教育現場での出前講座などを充実させ、さらに啓発活動をすすめてまいります。

○COVID-19 の定点調査の評価法・解釈等について

- ・新型コロナウイルス感染症の調査方法が全数把握から定点把握へと移行したことに伴い、今後その流行状況をどのように評価するするのか、その方法について検討していく必要があるのではないだろうか。